

ひまわりの種から油を 地球に優しい

バイオマス推進事業

松前町は、ひまわりを栽培し、種から油を取って燃料などに活用する「松前町バイオマス推進事業」を行っています。

ひまわり栽培は、「NPOいよ環境センター」と「松前町まちづくり塾」、「東古泉地区」に委託しました。

約9反の畑で播種から収穫までを行いました。

バイオマスとは

石油など化石資源以外の再生可能な資源のうち、ひまわりなど生物由来の有機性資源のことで、燃料や製品の原料として循環利用可能な地球に優しい資源です。

バイオマス推進の目的

休耕地や耕作放棄地を活用してひまわりなどの油糧作物を栽培し、大気中の二酸化炭素を増加させないバイオディーゼル燃料(BDF)を生産して利活用しています。これは、「循環型社会経済システム」の形成、「地球温暖化の防止」「農地の保全」「美しい景観形成」などを指すものです。植物は、その成長過程で大気中の二酸化炭素を吸収し、エネルギーに変換して蓄えます。そのため、これらを原料とする燃料を燃やしても、植物のライフサイクル全体では大気中の二酸化炭素量は変わらないため、「CO₂カウントゼロ」となるわけです。この考え方は「カーボンニュートラル」と言われています。

ひまわりの栽培

中川原地区は6月13日、東古泉地区は6月20日、まちづくり塾は8月2日に定植作業を行いました。地域の皆さん、いきいきまさきこボランティアセンターの子どもたち、伊予高生らが力を合わせました。

7月下旬頃からひまわりの花が咲き、中川原地区は8月1日にひまわり祭りを行いました。写生大会・魚のつかみ取りなど、大勢の参加者でにぎわいました。

▼8月1日 中川原地区ひまわり祭



▼6月20日 東古泉地区定植風景



▼6月13日 中川原地区播種風景



ひまわりの刈り取り

9月から10月にかけて刈り取りを行い、1348キロの種を収穫。西予市にある「希望の森」で搾油してもらい、146リットルの油が取れました。



ひまわりの種収穫量・搾油量

地区	(作付面積約)	収穫量	搾油量
中川原	3反	454kg	50.5ℓ
東古泉	5.1反	635kg	75.2ℓ
まちづくり塾	1.2反	247kg	20.5ℓ
	9.3反	1,336kg	146ℓ

文化祭でPR

10月31日、まさき文化祭で、21・22年度のバイオマス事業についてパネル展示をしました。また、いきいきまさきこボランティアセンターの子どもたちがひまわりの油を使ったフライドポテトを作りました。



ひまわり油の利用

ひまわりの油を保育所で調理用に利用した後、その使用済油をBDFにしました。公用車などに使用することでCO₂の削減を行っています。



保育所での給食利用

12月16日黒田保育所では、給食のさつま揚げにひまわり油を使用しました。



公用車へのバイオ燃料使用

ひまわりの種から搾油した油と一緒に、給食センターや家庭から出る使用済み食用油を回収し、変換施設でBDFに精製しています。

B5軽油の利用によるCO₂削減の量は1年間で約82キロと少量ですが、皆さんから回収した使用済み食用油で公用車が走っています。

今後は、給食センターの配送トラックや福祉センターの公用車に利用を広げたいと思います。



使用済み回収BOXの設置

役場庁舎、東・西・北公民館、まさき村、ダイキEX松前店に専用の回収ボックスを設置しています。

地域にある資源を有効に利用して、エネルギーの地産地消や資源循環型のまちづくりを目指すもので、地球温暖化対策にも有効です。回収にご協力をお願いします。

